

朴裕河氏が毎日新聞社訪問

アジア・太平洋賞特別賞授与



北村正任・アジア調査会長から賞金と記念の盾を受け取る朴裕河氏
(12月10日、毎日新聞社で)

アジア太平洋地域に関する優れた出版物の著者に贈られる「第27回アジア・太平洋賞」(主催・毎日新聞社、アジア調査会、後援・外務省、文部科学省、経済産業省、特別協賛・スルガ銀行、協賛・日本生命、三菱商事、協力・全日本空輸)で特別賞を受賞し、11月11日の授賞式に出席できなかった韓国・世宗大学国際学部教授の朴裕河氏が12月10日午前、毎日新聞社を訪問し北村正任・アジア調査会長から賞金30万円と記念の盾を受け取りました。

朴氏の受賞作は『帝国の慰安婦 植民地支配と記憶の闘い』(朝日新聞出版)。慰安婦問題について「帝国主義による女性蔑視」や「植民地支配がもたらした差別」などの観点から掘り下げ、これまでの一面的な見方を排して多面的な視点を提供しています。

「慰安婦問題について歴史的な慰安婦発生の構造とその実態解明から、『慰安婦問題』の発生、そしてこれらに対する韓国と日本における政治過程や、それぞれにおける『記憶』の生産と再生産の分析、さらには、今後の問題解決にむけての提言まで、いちいち傾聴にあたいする文章で綴ら



北村会長らと懇談する朴裕河氏

れている」（田中明彦・選考委員）と高い評価を受け、アジア・太平洋賞の特別賞に選ばれました。

朴氏は『帝国の慰安婦』の韓国語版で11月18日、元慰安婦を侮辱したとして、ソウル東部地検から名誉毀損罪で在宅起訴されました。この問題は「言論には言論を持って反論すべき」「学問の場に公権力が踏み込むべきではない」など異論が噴出し、日本や韓国の学者、ジャーナリスト、有識者らが抗議声明を出しています。

朴氏は北村会長らとの懇談で、在宅起訴後の状況や、起訴に対する韓国内での反応などを説明しました。

今回のアジア・太平洋賞では、朴氏のほか、京都大学大

学院法学研究科教授、奈良岡聰智氏が『対華二十一カ条要求とは何だったのか 第一次世界大戦と日中対立の原点』（名古屋大学出版会）で大賞を、また青山学院大学国際政治経済学部准教授、林載桓氏が『人民解放軍と中国政治 文化大革命から鄧小平へ』（名古屋大学出版会）で、毎日新聞外信部副部長兼論説委員、澤田克己氏が『韓国「反日」の真相』（文春新書）で特別賞を受賞しました。

なお、朴氏は『帝国の慰安婦』で「第15回石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」の「文化貢献部門」で大賞を受賞し、12月10日に授賞式が行われました。（編集部）